

# 会 議 録

会議の名称	第9期小金井市地域自立支援協議会（8月期）合同部会
事務局	福祉保健部 自立生活支援課、小金井市障害者地域自立生活支援センター
開催日時	令和6年8月29日（木） 午後6時15分から午後6時30分まで
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	<p><b>【委員】</b> 室岡 利明委員（会長、社会参加・就労支援部会長）、佐々木宣子委員（相談支援部会長）、浅野 貴博委員（障害者支援施設検討部会長）</p> <p><b>【事務局】</b> 自立生活支援課長 自立生活支援課障害福祉係長 自立生活支援課相談支援係長 小金井市障害者地域自立生活支援センター</p>
会議内容	第9期小金井市地域自立支援協議会（8月期）合同部会 会議録のとおり

## 第9期小金井市地域自立支援協議会（7月期）合同部会 会議録

（会長）

それではただいまから小金井市地域自立支援協議会合同部会を開催いたします。  
では各部の会議結果について共有したいと思います。

（社会参加・就労支援部会長）

まず私からの社会参加就労支援部会の会議結果について報告します。  
今回につきましては前回の7月25日に行われました部会活動報告、フリーターキング的にですね、前回ご意見をいただいた機会ですが、今回から2024年の一応超短期短時間雇用の議論というものにして、来年度2025年度については工賃向上について、具体的にお話をしましょうというところで、一応了承いただきまして、その上で超短時間雇用に関する課題、利用者側の課題、企業側の課題というところでいただきまして、企業としては一応アンケートを就労支援センターの方でとっていただいたのだけれども、なかなか回答が思わしくなかったということを受けて、その中で最後に就労継続A型とB型の差もわからないオーナーさん、企業側の方もいらっしゃるの、そういったところもやりながらでないとわかりづらい、回答しにくいよってというような話。それから、あと雇用を増やしていくにあたって、企業側のニーズとしてはオーナーさんの考え方、頭を柔らかくするっていうか本当にちょっとの短時間でも雇用をとというようなイメージを持ってもらうこと、非常にオーナーさんの頭を変えていかないと難しいよというお話があって、それからまたあとニーズ調査、B型のニーズを調査していただいてどんなものが必要なのか、あとマッチングをするにあたっての企業的な能力の見極め等が必要になってくるので、それをやるものも必要じゃないかっていうようなところが課題であり、それについて委員さんからはですね、前回でやったときは、専任のスタッフがいてその方が巡回をしてB型就労に対して調整をしていったというようなお話をいただきながら、どんな課題があるのか、最終的にですね、定義付け、超短時間雇用に関する定義付けというか目的、何のためにやるのかっていうのが明確になっていないので、そこら辺を改めて明確化する必要性があるのではないかというようなご意見も出ていたのが最大の課題だろうと認識をしたというところなんです。次回も一応課題についてお話をさせて頂きながら何が 필요한のか、この自立支援協議会の定義付けっていうか提案ができるといいのかというところで終わっています。

以上です。

事務局からなにか補足はございますか。

大丈夫でしょうか。

(会長)

はい、ありがとうございます。

続いて相談支援部会長お願いいたします。

(相談支援部会長)

相談支援部会は少し欠席の方もいらしたので人数は少なめで行いました。

相談支援部会が地域生活拠点事業に関わっていく可能性もあるというところで、まずは事業の内容を委員の皆さんで理解しましょうということで、本日事務局から説明をしていただきました。資料も三点ご準備していただいて、この事業の概要と、あと現在の課題について説明いただきました。なかなか難しさもあるねというところかもしれないのですが、ここまで整備されたけれども最終的にコーディネート者の設置が非常に難関だなというところで、難しいねそうだねというところまで共有して今日は終わったところです。次回のことはまだ漠然とはしているのですけれども、前回の打ち合わせのときに少しお話をさせていただいたとおり、何か事例的なもの、ちょっと個人情報のあるのであんまりしっかりした事例というのは出しにくいかもしれませんが、キーワードを出しながら、こういうところが課題だなんていうのを、今日の地域生活拠点の話だけでもすごく課題が大きいよねっていうところは、今日ちょっと人数少なかったのですが皆さん感じたと思うので、事例を持ってらっしゃるような事業所さんに連携とか、コーディネートとかそういうところがお話できたらなと思います。皆さん相談事業をされている方々なので、お話を始めれば、こういうことが自分たちの課題だと思っと思っていますというのはいくらでも出そうですけれども、まとめていくのは難しいなと思っっているんですが、ちょっと知恵を借りながら、でもあの1ヶ月しか間がないので、どなたでもお願いするのはちょっとすぐさまお願いしなくちゃいけないかなと思っ、ちょっとまだ私の頭の中でまとまっておられません。

以上です。

(会長)

ありがとうございます。

何か事務局から補足がございますか。

(事務局)

特にありません。

(会長)

続きまして障害者支援施設検討部会の報告をお願いいたします。

(障害者支援施設検討部会長)

障害者支援施設検討部会は事務局で資料を二つ用意してくれて、東京都の福祉局のホームページから調査結果、それともうひとつは小金井市の障害者支援施設等入所希望者一覧。この二つの資料の説明を事務局にさせていただき、このことについて最初色々質問や確認がありました。その中で委員より、前回に続いて想いがありますから、色んな要望ということで、今日、とても強くおっしゃっていたのですが、施設に期待する機能として二つあるのだと。一つは地域移行と、あとは親なき後の終の棲家になるという二つの機能を入所施設では持ってほしいということ強く希望されていて、もう一つはワンクッションの機能、これはどういうことかということ、小金井市に元々住んでいて、都外の施設に入所せざるを得なかった方が小金井市に入所施設が出来た時に小金井市に戻ってきて、親亡き後っていうか終の棲家、何かちょっとそういう形でのワンクッションということを考えておられるということでした。

他の委員が山梨のそれこそ都外施設で13年でしたか、職員として働いてこられたので、現場ならではの様々な課題ということで、今の段階ではまだ早いだろろということ、運営のこととか人材の確保といったより具体的なことは今日の専門部会が終わってから、必要に応じていろいろ出せますということはおっしゃって下さって、今後どんなふうに話が進んでいくかによって、いろいろ実際のところこういう難しさがあるよということを出してくれると思います。今日、そうだよねっていう共有したところは、実際にどういう機能を持つにせよ、入所施設ができた時に、その入所者が必ずしも小金井市の方とは限らないっていうようなことがありますよねということで、手挙げで民設民営になった場合には、その辺の縛りがどこまでできるのか、出来たはいいが入れるのかはまた別問題でそれはそうだねということ共有しました。

以上です。

(会長)

はい、ありがとうございました。

何か事務局から補足がございますか。

(事務局)

特にありません。

(会長)

いろんなご意見があったかと思えますけれども、そうしましたら続いてその他  
でございますが、委員の方から何かあれば、あと事務局から特にないですか。  
よろしいですか。

なければ、素早いご対応でありがとうございます。

これで報告会を終了したいと思います。

どうもありがとうございました。